

III 資料

目次

1	資料の見方	P60	5	集計表（教員）	
2	調査票			性別クロス集計	P127
	生徒	P63		性別×年齢（年代）クロス集計	P132
	教員	P68		性別×役職クロス集計	P153
3	属性			性別×担当教科クロス集計	P174
	生徒	P72		設問クロス集計	P178
	教員	P73	6	分析結果	
4	集計表（生徒）			生徒	P193
	性別クロス集計	P75		教員	P218
	性別×年齢（年代）クロス集計	P87			
	性別×学年クロス集計	P107			
	性別×学科クロス集計	P112			
	設問クロス集計	P114			

1 資料の見方

- **集計方法** : 集計は、「単純集計」と「クロス集計」の2種類を行った。

単純集計 … 設問ごとの、それぞれの選択肢に何人が回答したのかについての単純な集計

クロス集計 … 回答者の属性と各設問及び設問同士を縦横に掛け合わせた（クロスした）集計

- **クロス集計項目** : クロス集計を行う項目については、性別を基本とした関連項目および、分析のため設問間の関係として必要と判断した項目を採用した。

なお、下記の無意識の思い込みの認知度等に関する設問に重み付けを行い得点化し、合計点に応じて生徒は1～4、教員は1～5のカテゴリ分けを実施した。

【生徒】

24	無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）について知っていますか	1. よく知っている 2. ある程度知っている 3. あまり知らない 4. 全く知らない
25	無意識の思い込みについて、学校で習ったことはありますか	1. 習ったことがある 2. 習ったことがない



得点	
カテゴリ1	24(1or2)かつ23(1)
カテゴリ2	24(1or2)かつ23(2)
カテゴリ3	24(3or4)かつ23(1)
カテゴリ4	24(3or4)かつ23(2)

【教員】

17	無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）について知っていますか	1. よく知っている 2. ある程度知っている 3. あまり知らない 4. 全く知らない
18	(No17で「1. よく知っている」「2. ある程度知っている」と回答した方) 学校での指導等において無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）を意識している	1. よく知っている（4点） 2. ある程度知っている（3点） 3. あまり知らない（2点） 4. 全く知らない（1点）
19	(No17で「1. よく知っている」「2. ある程度知っている」と回答した方) 教員間で無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）について話をしたことがある	1. あてはまる（4点） 2. どちらかというにあてはまる（3点） 3. どちらかというにあてはまらない（2点） 4. あてはまらない（1点）
20	(No17で「1. よく知っている」「2. ある程度知っている」と回答した方) 生徒への指導で無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）を取り上げたことがある	1. 取り上げたことがある（3. 5点） 2. 取り上げたことはない（1. 5点）



得点	
カテゴリ1	17（1or2）を選んだ人 11.5以下～9.5以上
カテゴリ2	17（1or2）を選んだ人 9.5未満～7.5以上
カテゴリ3	17（1or2）を選んだ人 7.5未満～5.5以上
カテゴリ4	17（1or2）を選んだ人 5.5未満～3.5以上
カテゴリ5	17（3or4）を選んだ人

1 資料の見方

- **クロス集計表** : クロス集計表には、前頁「クロス集計項目」を基本分類軸として掲載した。クロス集計表については、属性性別を「回答しない」「その他」を含めて掲載した。グラフおよび本編中のクロス集計結果は、表頭(列側)・表側(行側)とも属性性別を「回答しない」「その他」等を省いたものを掲載した。そのため、表の全体とカテゴリの合計が一致しない場合がある。例えば、男女計の度数は全体の度数に一致していない。
- **分析** : クロス集計結果の設問間の関係について、カイ二乗検定、残差分析及びスピアマン順位相関係数を算出して分析を行った。

カイ二乗検定 有意水準5%未満のときを有意差ありとした。（「*」と表記）

クロス集計のカイ二乗検定にあたっては、質問項目の回答を以下のように2カテゴリーに統合して行った。「そう思う」と「どちらかというと思う」を<そう思う>、「どちらかというと思わない」と「思わない」を<思わない>として集計して実施した。また、「あてはまる」と「どちらかというにあてはまる」を<あてはまる>、「どちらかというにあてはまらない」と「あてはまらない」を<あてはまらない>として同様に集計したうえで検定を実施した。

残差分析 調整残差の絶対値が1.96以上の場合であり、有意水準5%未満のときを有意差ありとした。（「*」と表記）

また、スピアマン順位相関係数の無相関検定はほとんどのものが有意となるため有意水準の表記は省略した。

1 資料の見方

- **回答率の表記** : 回答率 (%) は、小数第 2 位を四捨五入して、小数第 1 位を算出したものを使用した。よって、回答数が 0 人では無い場合でも表記上 0.0 となるケースがある。
- **単一回答の設問** : 上記の (1) により、単一回答 (選択肢を 1 つだけ選ぶ: S A) 設問において、合計は 100.0% となるが、小数点第 2 位を四捨五入しているため、すべての選択肢の回答率を合計しても 100% に満たない、または上回る場合がある。
- **複数の回答の合計値** : 2 つ以上の選択肢を合わせた項目の回答率 (%) を表記する場合、その回答率 (%) は、それぞれの選択肢の実数値を合計して、回答率 (%) を再計算したものを使用している。このため、複数の回答の合計値と図表の数字が一致しない場合がある。
- **回答率 (%) の比較** : 回答率 (%) の比較を行うにあたっては、ポイントと表記している。

回答率の合計が 100% にならない、または、複数の回答の合計値が一致しない例

	四捨五入前の回答率 (小数第 2 位)	四捨五入後の回答率 (小数第 1 位)
選択肢A	90.00%	50.2%
選択肢B	90.0%	39.9%
選択肢C	10.00%	10.0%
合計	100.00%	100.1%

四捨五入前の回答率合計と一致しない

100%にならない